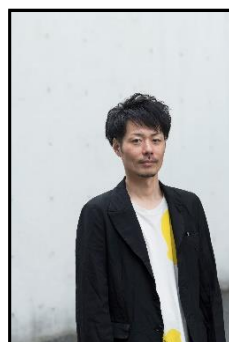


## 令和6年度 リージョナルシアター事業 アーティストプロフィール

アーティストは派遣先の地域でワークショップを行う講師を務める他、実施団体の企画する事業の内容について、実施団体担当者と共に検討を行うコーディネーターの役割も兼ねます。



### 多田 淳之介

演出家、  
東京デスロック主宰

©平岩亨

1976年生まれ。神奈川県・千葉県出身。演出家。東京デスロック主宰。現代を生きる人々の当事者性をテーマに古典から現代劇、ダンス、パフォーマンス作品まで幅広く手がける。地域、教育機関での子どもや演劇を専門としない人との創作、ワークショップ、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションなど、演劇の協働力を軸にボーダーレスに活動する。2010年より富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3期9年間務める。2014年『ガモメ カルメギ』が韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。東京芸術祭共同ディレクター。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。おもな演出作品に『再生』『ガモメ カルメギ』『ハッピーな日々』『BEAUTIFUL WATER』など。



### 田上 豊

劇作家・演出家、  
田上パル主宰

劇作家／演出家／田上パル主宰。1983年生まれ熊本県出身。桜美林大学文学部総合文化学科卒業。専門は現代劇。移りゆく時代の中で揺らぐ人間やその集団を描き出すのを得意とする。劇団外でも公共劇場プロデュース公演やダンスカンパニーとの合作、国際共同事業など様々な活動を展開。近年は全国各地の小学生から高校生までを対象にした作品創作を精力的に行い、地域性を生かした演出法に定評がある。創作型、体験型、育成講座まで幅広くワークショップも行う。2019年より富士見市民文化会館キラリふじみの芸術監督を1期3年務める。地域創造派遣アーティスト。奈良市アートプロジェクト舞台芸術プログラムディレクター。芸術文化観光専門職大学助教。



### 有門 正太郎

演出家・俳優、  
有門正太郎  
プレゼンツ主宰

1975年生まれ北九州市出身。倉本聰主宰「富良野塾」、泊篤志代表「飛ぶ劇場」を経て、2005年「有門正太郎プレゼンツ」を始動。「笑顔になれば何でも出来る」を合い言葉に作、演出も務め全国でワークショップやアウトリーチ活動も行っている。俳優では様々な全国ツアー公演等に参加。高校演劇専科での講師経験を活かし、北九州芸術劇場「日韓合同キャンプ〜チャレンジ! えんげき〜」の総合演出等も務める。役者として主な出演作品、富良野塾公演『今日、悲別で』『走る』（作・演出：倉本聰）、北九州芸術劇場プロデュース『錦鯉』（作・演出：土田英生）『江戸の青空』（作：千葉雅子、演出：G2）、時空の旅『シラノ・ド・ベルジュラック』（演出：永山智行）など。



### 福田 修志

劇作家・演出家、  
F'sCompany 代表

1975年長崎市生まれ。劇作家・演出家。長崎大学教育学部卒。1997年にF's Company（フーズ・カンパニー）を旗揚げし、代表と作・演出を務める。心の機微を丁寧に描く作風が特徴で、長崎弁で描かれる作品には独特の温かさが感じられる。劇団外の活動としては、長崎市での市民参加型舞台の経験を活かし、子供から大人までが一緒になって創作を楽しめる空間作りを大切にし、地域にある歴史や風習を背景とした作品創作を各地で行っている。また近年では演劇を活用した様々な企画やワークショップを行い、社会の接着剤のような活動も多くなっている。その他、「演劇を長崎の娯楽の一つに」という目標を実現すべく、2018年には長崎市内にアトリエ PentA という小さな劇場を構え、ディレクターとしても活動を続けている。代表作『マチクイの詩』『けしてきえないひ』『ノイジー』。



### ごまのはえ

劇作家・演出家

ニットキャップシア  
ター代表

1977年大阪府生まれ。劇作家、演出家。1999年自身が劇団代表となって「ニットキャップシアター」を設立。以来、京都を創作の拠点に日本各都市で公演をおこなっている。楽器や仮面など様々な表現手段でイメージーションあふれる表現を追求する一方、「街の記憶」をテーマに地域の歴史や文化を題材にした創作も行っている。2004年『愛のテール』で OMS 戯曲賞大賞受賞。2005年自身の故郷大阪府枚方市を題材にした『ヒラカタ・ノート』で OMS 戯曲賞特別賞受賞。2022年サハリン（樺太）の100年の歴史を描いた『チェーホフも鳥の名前』で希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」。得意料理はカオマンガイ。一般社団法人毛帽子事務所所属。



## 越智 良江

劇作家、演出家、  
演劇ユニット  
KOKOO 主宰

広島生まれ・東京。劇作家・演出家。演劇ユニット KOKOO 主宰。広島で「劇団 Tempa」を創立し、作品の創造、創客に奔走。その他、演劇・コンテンポラリーダンサー・ベーシストとの作品「With One's」、伝統芸能・神楽をモチーフにした「贗作・三年目」、演劇引力広島プロデュース公演「マリーゴールドの女たち」劇作、RCC ラジオ番組「ラジプリズム 剣と弓」作・演出など。2016 年から(公財)広島市文化財団佐伯区民文化センター主催人材育成事業「さえきキッズ」指導・脚色・演出。演劇ユニット KOKOO「ドブラー」(東京)、「瀬戸内国際芸術祭 2019」(直島)、新潟 越後妻有大地の芸術祭 2022(津南町)、Linna kanazawa アーティストレジデンス LAiR2023(石川県)など、各地で活動している。



## 志賀 亮史

演出家、  
百景社代表

1979 年埼玉県生まれ。演出家。百景社代表。2000 年、大学在学時に劇団「百景社」を旗揚げ、以後ほぼ全ての作品で演出を担当する。劇団名の「百景社」は、シェイクスピアなどの古典作品や文学作品をいろいろな角度から読み直し、今にも通じる新たな景色を描きたいという思いから名付ける。旗揚げ当初は、拠点である茨城県を中心に野外公演や田んぼのなか、石組倉庫、庭園など、いわゆる劇場外での上演を多く行っていたが、2009 年に利賀演劇人コンクールで優秀演劇人賞(演出)を受賞後、日本各地や時に海外での上演なども行うようになる。2013 年に茨城県土浦市にアトリエを構えてからは、自身の作品創作以外にも、さまざまな舞台作品を招聘するなどの活動も行っている。



## 樋口 ミユ

劇作家、演出家  
Plant M 主宰

劇作家・演出家。Plant M 主宰。1995 年の劇団 Uglyduckling 旗揚げ以降、2011 年の解散まで劇団公演 32 作品の戯曲を執筆する。同年、座・高円寺の「劇場創造アカデミー」演出コースに編入し、佐藤信氏に師事。2012 年に plant M を立ち上げ、大阪・東京をはじめ仙台・横浜・豊橋・雲南・沖縄など各地で公演。2011 年から 2021 年の 10 年間、3 月春分の日に関東大震災のチャリティリーディングを行った。1999 年『深流波〜シンリュウハ〜』、2000 年『ひとよ一夜に18片』で OMS 戯曲賞大賞を 2 年連続受賞 2012 年ラジオドラマ『飛ばせハイウェイ、飛ばせ人生』で放送文化基金賞(ラジオドラマ部門)。2019 年より OMS 戯曲賞の最終選考審査員を務める。

<アドバイザー> 内藤 裕敬 (劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)  
岩崎 正裕 (劇作家・演出家、劇団太陽族代表)